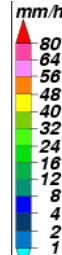
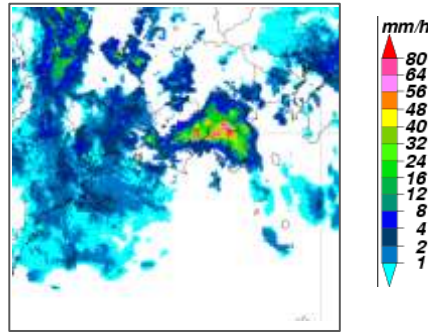


2004年 6月25日 不安定 (停滞前線近傍)

1. 気象経過

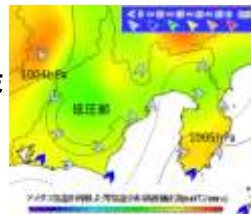
25日9時には梅雨前線が九州北部から山陰地方をぬけて関東の東海上にのびていた。また、前線上に低気圧が発生し山陰地方を東進していた。一方、太平洋高気圧が日本の東海上より張り出し、高気圧の縁辺を回り込む暖かく湿った南西風が、前線に向かって吹いていた。県内では25日未明から雨が降り出し、静岡WPR高度1500m付近で南西風が強まり始めた朝には強い雨が降り出した。さらに、甲府―長野県境付近にある局地的な高気圧から県内山地へと噴き出す北東の冷たい風と南西風との間で低気圧性の風循環ができ中部で雨雲が発達した。この雨雲は、高度3000m付近の強い西風により東へと流され、東部、伊豆にかけ線分布をした強雨域が発生した。これにより、静岡地方気象台では10時18分までの1時間に51.5mm、三島特別地域観測所では11時26分までの1時間に51.5mmの非常に激しい雨を観測した。



2004年6月25日9時地上天気図 2004年6月25日10時0分レーダー

2. 大雨の原因、特徴

西部山地から山沿いへと吹く北寄りの風が沿岸部に吹く南西風と合流し、局地的な前線上で低気圧性循環の風向が形成された。これらが、雨雲の発達に影響したと考えられる。また、浜松(防衛省)高度1500m付近では、25日9時には南西16m/s、相当温位*345Kの暖かく湿った風が吹いており、この暖湿流が非常に激しい雨をもたらせたと考えられる。
※相当温位: ある高さの空気塊のエネルギーを同じ条件下(1000hPa気圧面)で比較するため換算したもの。暖候期の高度1500m付近の相当温位の目安としては、330Kを越えると短時間強雨の可能性が高まり、340Kを越えると大規模な災害が発生するような大雨に警戒が必要となる。単位は絶対温度(K:ケルビン)



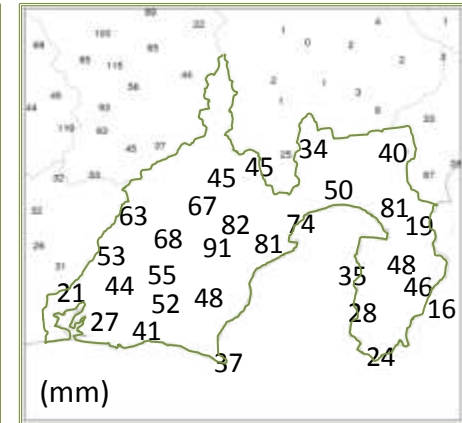
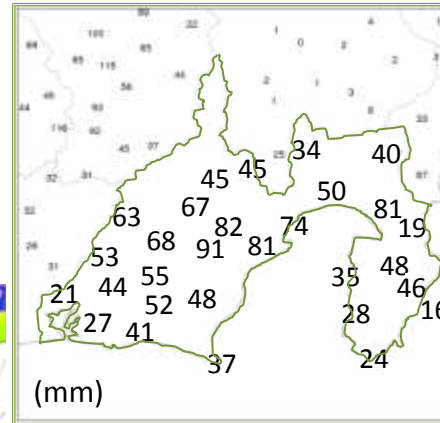
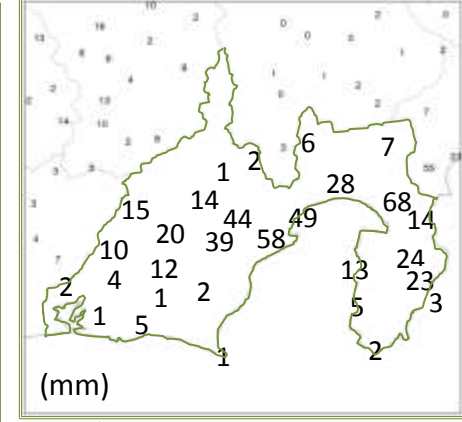
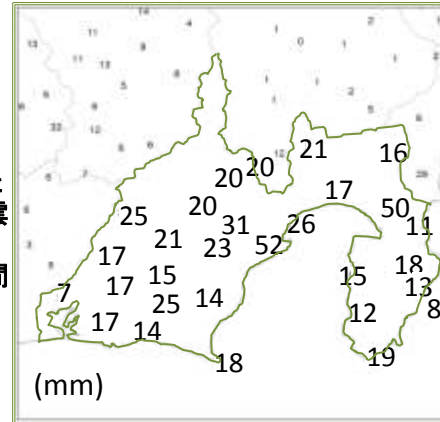
2004年6月25日9時
アメダス気温・風分布図

3. 被害概要

	床上 浸水 (棟)	床下 浸水 (棟)	全壊 半壊 (棟)	一部 破損 (棟)	死者 行方不明 (人)	重傷 (人)	軽傷 (人)	倒壊 の(力)部	陥没 の(力)部	倒壊 の(力)部	倒壊 の(力)部	倒壊 の(力)部	倒壊 の(力)部
全県	0	22	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
中部	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
西部	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
東部	0	22	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
伊豆	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-

被害数は、静岡県 平成16年における災害の状況による

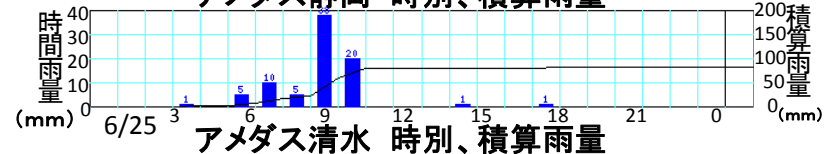
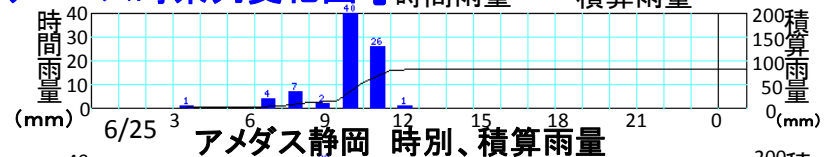
4. アメダス雨量分布図



アメダス日雨量 6月25日

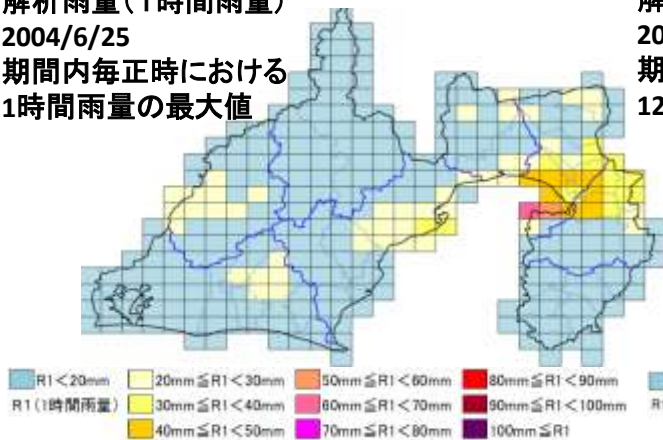
アメダス 3日間雨量
6月23日~25日

5. アメダス時系列変化図



6. 解析雨量分布図

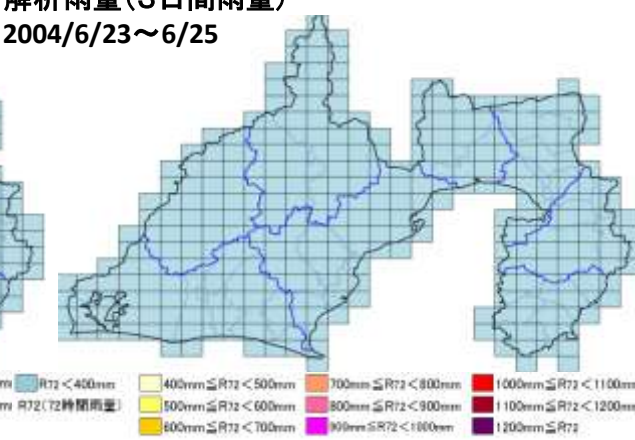
解析雨量(1時間雨量)
2004/6/25
期間内毎正時における
1時間雨量の最大値



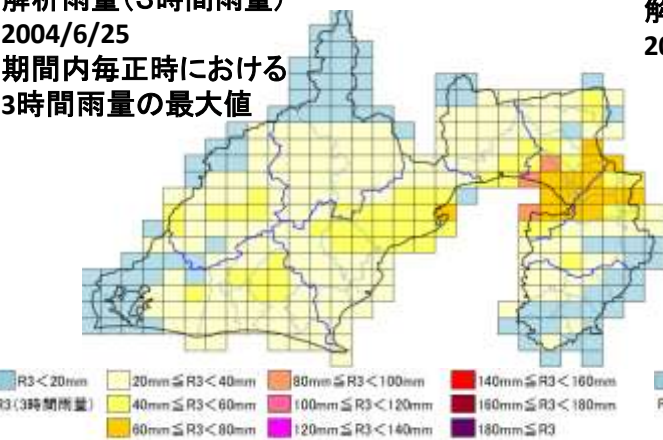
解析雨量(12時間雨量)
2004/6/25
期間内毎正時における
12時間雨量の最大値



解析雨量(3日間雨量)
2004/6/23~6/25



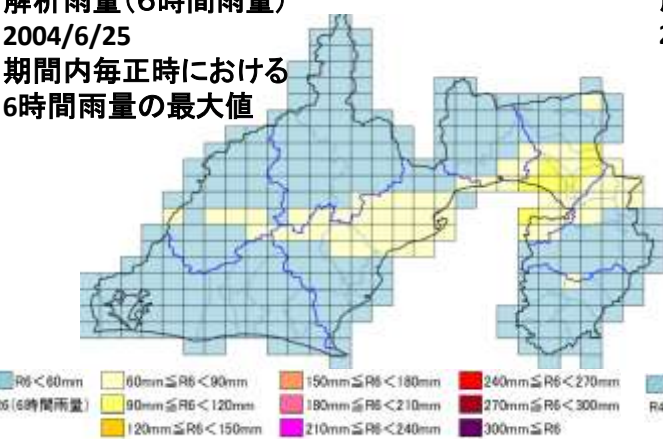
解析雨量(3時間雨量)
2004/6/25
期間内毎正時における
3時間雨量の最大値



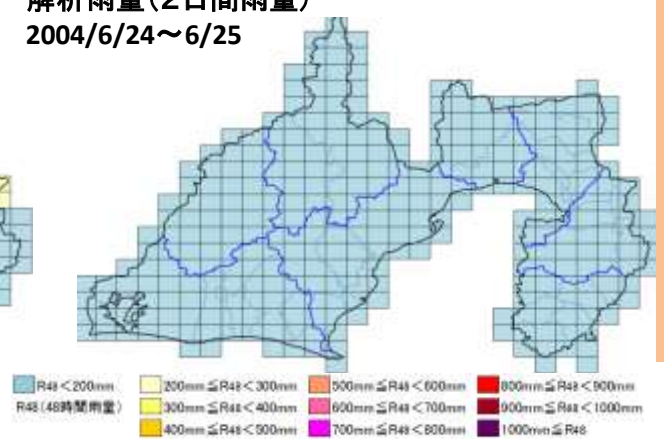
解析雨量(24時間雨量)
2004/6/25



解析雨量(6時間雨量)
2004/6/25
期間内毎正時における
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)
2004/6/24~6/25



7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)



被害数は、静岡県 平成16年における災害の状況による

解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

中部南か駿河湾を挟んで富士山南東、伊豆北に東西にのびる分布で強雨が発生している。3時間雨量でわかるように、雨雲が暫くかかり続ける線状分布東端で雨量が多くなり、浸水害が発生した。ただし、大きな規模の低気圧や前線近傍といった状況ではなく、数時間程度で現象は終わった。